

■北海学園大が北海道大に快勝。帯広畜産大も釧路公立大を下す

春季オープン戦は最終日の7月14日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドなどで2試合を行った。北海学園大はQB成田滉佑（3年、札幌白石高）の2TDパスと1TDランなどで37-0と北海道大に快勝した。北海学園大はオープン戦を3連勝で終えた。帯広畜産大は27-7で釧路公立大を下した。この日でオープン戦は全日程を終了。各大学は夏合宿をへて、8月下旬開幕の北海道学生選手権（秋季リーグ）に臨む。



昨年の秋季リーグ1部で準優勝の北海学園大と同優勝の北海道大の対戦は、秋を占う注目の一戦。北海学園大が第1Q3分にOL/K水谷大空（4年、静内高）の26ヤードFGで先制すると、1分後にはQB成田滉からWR八乙女凌太郎（3年、札幌東陵高）への6ヤードTDパスで10-0とリードを広げた。QB成田滉は第2Q1分にもWR八乙女へ24ヤードTDパスを決め、同6分には自らの9ヤードランで加点。第3Q7分に、エースRBの高杉武生（4年、浦河高）が1ヤードラン、第4Q9分にも1ヤードTDランを決めて、37-0とした。

北海道大は立ち上がり、DL朝熊亮介（4年、東京・麻布高）とDL依田柁基（4年、愛知・海陽中等学校）が立て続けにQBサックを決める守備を見せたが、攻撃陣が振るわず、前半だけで3回のターンオーバーを喫した。後半も北海学園大にオンサイドキックを決められるなど精細を欠いた。最終QにQB山本康介（4年、奈良学園登美ヶ丘高）のキープと、WR米谷和馬（2年、奈良高）へのパス、RB谷口遼馬（1年、東京・都市大付属高）のランで第1ダウンを更新するのが精いっぱいだった。

北海学園大の高木幸樹HCは「今日は北大の出来が悪かった。QB成田滉とWR八乙女のホットラインでインサイドのパスが通った。今年は若いチームなので、春は基本をやり続けた。夏の練習では体力とチーム力の向上を目指す」と春シーズンを総括。2TDキャッチのWR八乙女は「ホットラインは万全。QBがめちゃめちゃ良い判断を見せたので、それにしっかりと合わせた」と胸を張った。



北海道大の樋之本彬HCは「今日はロスプレーが多かった。練習しているプレーができなかった。秋に向けて、まず下がらないプレーから始める。RB、WRの主力選手を絞り込みたい」と巻き返しを決意した。

帯広畜産大グラウンドで行われた帯広畜産大－釧路公立大戦は、帯広畜産大が第2Q6分にWR桂田陽向（3年、福井・若狭高）のFGで先制すると、同11分にはQB岡田優人（2年、神奈川・横浜東高）からWR穂山偉月（1年、香川・丸亀高）へのTDパスが決まり、トライもRB安澤十野（2年、帯広柏葉高）が走り込んで11－0とリードした。第3QにはQB岡田のランで加点、第4QにもWR桂田の2本目のFGとLB石村周也（4年、札幌清田高）のファンブルリターンTDでリードを広げた。

釧路公立大は第4Q7分にQB山口響生（4年、札幌清田高）とWR高坂駿佑（4年、滝川西高）のホットラインでTDを返したが、反撃が遅かった。